

コロナ禍でも、できることはたくさんあります！



会長 平泉 憲一

みなさま、いかがお過ごしでしょうか？
 昨年、新評議員、新理事を迎えて新体制となった山桜会ですが、依然、新型コロナウイルスの感染は終息しておらず、この1年間は皆が集まっての活動はほとんどできませんでした。新年会、山桜ゴルフ、ボーリング大会、ハイキング、バーベキュー大会など、これまで「開催して当然」と考えてきた山桜会活動が、全く開催できず、逆にこれまでの活動が本当にありがたいことだったと痛切に感じます。

しかし、山桜会は、Zoomなどのリモート形式で評議員会や各種委員会などは通常どおり開催し、これまで仕事や家庭の都合で会場の学校まで来られなかった方が、リモートならばとご参加いただき、会員相互の活動自体は活性化しています。これは広報委員会によるホームページやSNSの充実拡大によるバックアップも大きく寄与しています。リモートでの活動は、集まらなくても参加できることにより「全会員に開かれた活動」です。常に全員が手軽に参



加できます。どんどん活性化して皆で楽しんでいきましょう。また、参集型活動が制約された分、これまでの山桜会活動を見直し、未来の活動をじっくり検討していきます。これまで目先の活動に追われ、先送りしてきた課題も少なくありません。リモートを通じてより一緒に山桜会の未来を語り合しましょう。

コロナ禍でも、できることはたくさんあります！本年度も、これまで以上に皆さまのお力をお貸しください。

追手門学院

母校の発展は、山桜会とともに



理事長 川原 俊明

平泉会長をはじめとする山桜会会員の皆様におかれましては、日頃より、母校に対する多大なるご支援ならびにご協力に感謝申し上げます。

昨年からのコロナ禍で、経済活動の停滞により学習継続に困難をきたす恐れのある学院生への支援、ならびにWi-Fi環境をはじめとする膨大な設備投資の必要性から、本学では、5億円の新型コロナ対策臨時基金を創設しました。

山桜会からも多額のご支援をいただきました。改めて御礼申し上げます。おかげさまで、コロナ禍でオープン

キャンパスや入試説明会など、例年どおりの実施ができなかったにもかかわらず、各校園の募集活動は、教職員のご尽力で成果を上げることができました。

追大では、9年連続志願者増達成で、開学以来の志願者数3万人を突破。2021年度一般入試における志願者数で全国上位50校以内に頭角を現しました。

体育大会や文化祭など各校園の主な行事も、「密を避ける」観点から大幅

に企画変更しましたが、多数の保護者から好評でした。ピンチをチャンスに。まさに学校教育が、パソコン・タブレットを活用したICT機器活用教育に舵を切るチャンスになりました。2019年4月開設の茨木総持寺新キャンパス。本学を中心に新しいスマートタウンが形成されつつあります。今年3月には、新キャンパス前にイオンタウン竣工。中高の生徒たちと一緒に植樹祭に参加しました。苗木とともに生徒たちの成長、学院の発展を願いました。

